

7 | 歯周病

歯周病とは、歯の周囲の組織である歯肉や骨などが破壊される病気のことです。歯の主な喪失原因であるこの病気は、歯肉だけに症状が出る歯肉炎と、歯肉だけでなく歯を支えている骨にまで影響を及ぼすようになる歯周炎とに分類できます。

歯周病予防には、発症原因である歯垢（しこう、歯の汚れ）を除去するための適切な生活習慣を維持することが第一歩となります。

スローガン

「健康な歯肉で
守ろう自分の歯」

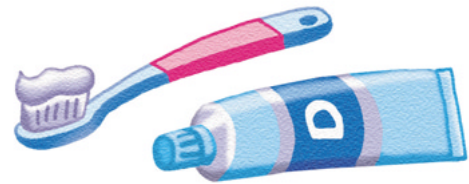


府民の実践目標

歯周病についての正しい知識を持つ

自分の口の中の状態にあ
った歯の磨き方を知ろう

歯間清掃補助用具(歯間ブ
ラシ)を使用して歯と歯ぐき
の手入れをしよう



定期的に歯科健診や歯石
除去・歯面清掃などを受け
よう



健康づくりのための環境整備

歯磨きの必要性和予防効果に関する知識の普及・啓発

歯周病についての情報提供体制整備のため、地域及び職場での歯科専門職の積極活用

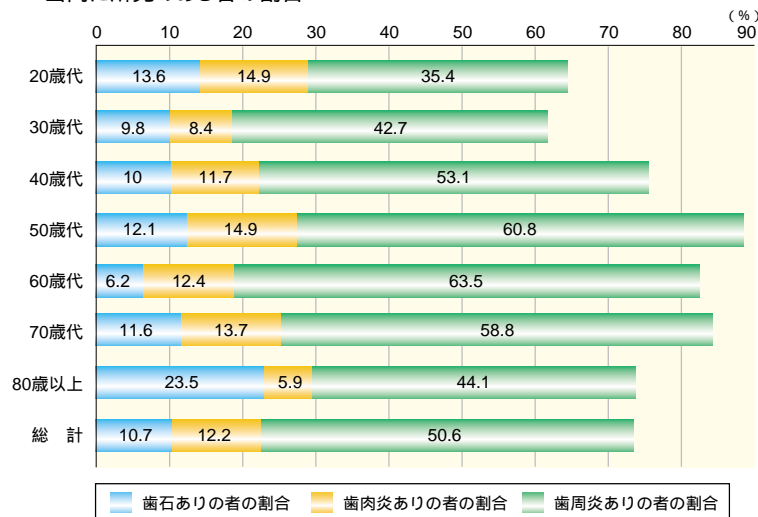
定期的に歯の健診を受ける必要性の普及・啓発

現状

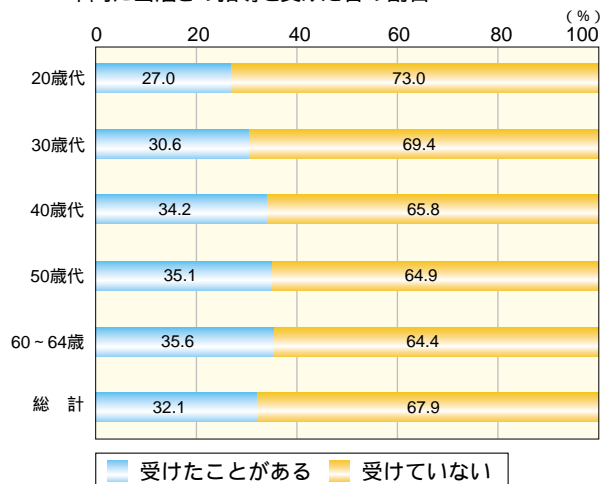
<平成12年度 府民歯科保健実態調査>

歯肉に所見を有する者の割合は20歳代では63.9%で、ピークは50歳代の87.9%と高い。
 壮年期(30～64歳)で歯間清掃補助用具を使用している者の割合は49.7%である。
 20～64歳で過去1年間に正しい歯磨きの仕方について指導を受けた者の割合は32.1%である。
 20歳以上で定期的に歯科健診を受けている者の割合は21.5%と低い。 (P28)
 60歳代で24本以上の歯を有する者の割合は46.0%である。 (P139 図31)
 60歳代で一人平均現在歯数は20.8本である。 (P139 図32)

歯肉に所見のある者の割合



一年間に歯磨きの指導を受けた者の割合



「平成12年度 府民歯科保健実態調査」



たばこと歯周病

近年、喫煙が歯周病に影響を及ぼすといわれています。
 また、口の中に及ぼす影響として、口腔がん、たばこ色素沈着、口臭などがあります。

共に目指す目標 (府域)

項目	現 状	目標(2010年)
50歳代で歯肉に所見を有する者の割合	87.9%	60%以下
壮年期で歯間清掃補助用具を使用している者の割合	49.7%	60%以上
20～64歳で過去1年間に正しい歯磨きの仕方について指導を受けた者の割合	32.1%	50%以上
20歳以上で定期的に歯科健診を受けている者の割合	21.5%	30%以上
60歳代で24本以上の歯を有している者の割合	46.0%	50%以上

現状の値は、平成12年度 府民歯科保健実態調査による



歯肉炎と歯周炎

歯肉炎・・・歯肉に炎症がおきている状態

- ・歯肉の色は赤みをおびる
- ・歯肉の先端が丸みをもって膨らんでいる
- ・歯みがき程度の軽い刺激でも出血しやすい

歯周炎・・・歯槽骨や歯根膜にまで炎症が進んだ状態

- ・歯肉の色は赤紫になる。歯肉はぶよぶよになり退縮してくる
- ・口臭がある
- ・歯肉が退縮するため歯が長く見える
- ・歯がグラグラし、血や膿がでる

これらの予防のためには、歯と歯肉の境目の歯垢をきちんと落とすことが大切になります。

